

職業リハ学会通信

NO.139 2014年 9月発行

学会大会

日本職業リハビリテーション学会 第42回(岩手)大会へのご協力、 ありがとうございました

会期:2014年8月28日(木)、29日(金)
会場:岩手県立大学

第42回大会は、「多様なニーズにこたえる職業リハビリテーション」をメインテーマに、初日は、研修基礎講座(2会場)、基調講演、学会主催ワークショップ(1会場)、自主ワークショップ(3会場)および口頭発表(10演題)が、二日目は、口頭発表(21演題)、ポスター発表(13演題)および大会主催のシンポジウムが行われました。

研修基礎講座は、就労支援のノウハウが十分に蓄積されているとはいえない発達障害者の支援に関する講座と、自身の体験を中心としたインクルーシブ時代の障害者の就労支援に関する講座が開講されました。岩手県社会福祉協議会障がい者福祉協議会会長の久保田博氏による「地域で暮らす、地域で働く、地元でつなぐ職業リハビリテーション」と題する基調講演は、岩手県内の雇用環境や就業状況に関する最新データに基づく話には説得力があり、シンポジウムでの討論のよいきっかけになったと考えています。

またシンポジウムでは、「地方の特性に応じた職業リハビリテーション実践～多様なニーズにこたえるために～」と題して、岩手県内の職業リハビリテーションに携わる当事者、事業主および支援者による、多面的な議論が行われました。シンポジウムを通じて、今後、地方での職業リハビリテーション実践をいかに展開するかについて、岩手県での実践を基に、多くの有用な視点が共有されたのではないかと考えております。

研究発表(ポスター発表と口頭発表)では、いずれの会場でも、熱心で充実した発表および議論がなされました。学会主催ワークショップでは、平成28年4月の障害者差別解消法の施行を前に、障害者雇用における差別禁止と合理的配慮のあり方について、わが国での実情を踏まえた現実的な方向性が検討され、自主ワークショップは、いずれも新しい視点のテーマで、わが国の職業リハビリテーションのあり方について新しい切り口から検討されていました。

平成26年1月に、「障害者の権利に関する条約」の批准に至り、障害者の権利の実現に向けた取り組みが国内で一層強化されるなか、改めて地方において、働くことおよび働くことを支援する意義を探究し合いながら、参加者がまさに「多様」な発想と問題提起の出会いの機会となったのではないかと考えております。なお、第43回大会は、2015年8月の2日間、大妻女子大学で開催されますので、多くの皆様のご参加を期待しております。

第42回事務局長 小澤 昭彦
(岩手県立大学)

